令和６年度全国学力・学習状況調査
教科・質問分析［結果の概要］①
船橋市立大穴中学校

R06

令和６年度全国学力・学習状況調査
教科・質問分析［結果の分析］②
船橋市立大穴中学校

R06

＜教科に関する調査＞

1段目：学校　2段目：千葉県（公立）　3段目：全国（公立）

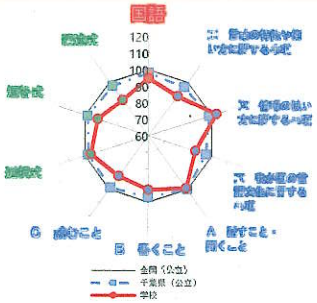
【国語】

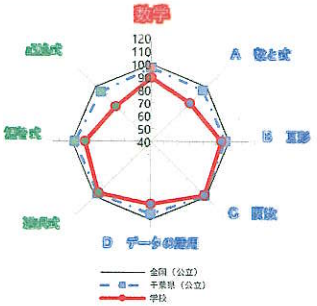
			設問数	正答率	相対値
全体	国語		15	55	94.7
				57	98.1
				58.1	—
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	3	53.1	89.7
				57.1	96.5
				59.2	—
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	61.3	102.9
				58.5	98.2
				59.6	—
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	67.8	89.7
				72.8	96.3
				75.6	—
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	58.2	99.0
				58.7	99.8
				58.8	—
		B 書くこと	2	60.5	92.6
				63.4	97.1
				65.3	—
		C 読むこと	4	43.2	90.2
				47.3	98.7
				47.9	—
問題形式	選択式		9	58.8	96.4
				59.8	98.0
				61.0	—
	短答式		3	56.9	92.1
				60.9	98.5
				61.8	—
	記述式		3	39.4	86.6
				44.2	97.1
				45.5	—

【数学】

		設問数	正答率	相対値
全体	数学	16	47	89.5
			51	97.1
			52.5	—
学習指導要領の領域	A 数と式	5	41.9	82.0
			49.1	96.1
			51.1	—
	B 図形	3	38.0	94.3
			39.2	97.3
			40.3	—
	C 関数	4	59.7	98.4
			60.1	99.0
			60.7	—
	D データの活用	4	49.0	88.3
			53.2	95.9
			55.5	—
問題形式	選択式	5	56.3	96.2
			56.7	96.9
			58.5	—
	短答式	6	60.5	90.3
			65.6	98.2
			67.0	—
	記述式	5	22.9	78.2
			27.6	94.2
			29.3	—

※教科レーダーチャートは、各区分の全国（公立）の平均正答率を100とした場合の相対値を示したものである。





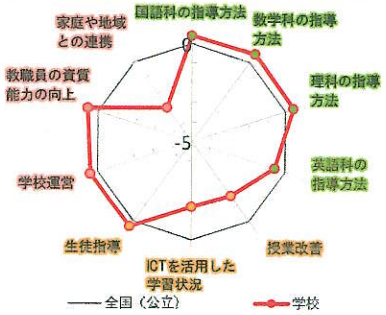
＜学校質問調査＞

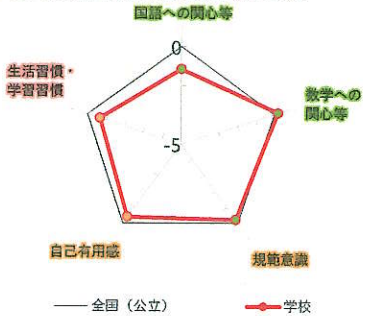
	国語指導	数学指導	理科指導	英語指導	授業改善	ICT活用	生徒指導	学校運営	資質向上	家地連携
パラメータ値	2.00	2.00	2.00	1.80	1.55	1.56	2.00	2.00	2.00	1.00
スコアZ	0.40	0.50	0.44	-0.56	-1.58	-1.67	0.35	0.40	0.55	-2.86

＜生徒質問調査＞

	国語関心	数学関心	規範意識	自己有用	生活学習
パラメータ値	3.02	3.12	3.52	3.08	3.04
スコアZ	-1.16	0.19	-0.21	-0.39	-0.67

※質問紙レーダーチャートは、文部科学省の「『全国学力・学習状況調査結果チャート』の作成方法」に基づき、「調査結果に関する補足説明　全国学力・学習状況調査結果チャートについて」に示された全国平均値及び標準偏差を基に算出した値を示したものである。なお、「教科学力」については、上記＜教科に関する調査＞と重複するため省略してある。





＜教科に関する調査の結果にみられる特徴と現状分析＞

国語の調査結果にみられる特徴と現状	数学の調査結果にみられる特徴と現状
・「情報の扱い方に関する事項」や「話すこと・聞くこと」についての正答率が高い。 ・記述式の問題や「読むこと、書くこと」など、思考力が必要な問題が苦手な傾向にある。「書くこと」に対して抵抗感がある生徒も多い。 ・読書習慣が身についていれば向上しやすい「読むこと」の力が低いため、朝の読書の時間を有効活用し、生徒が活字に触れる時間の確保が必要である。	・「図形」と「関数」に関しての全国との相対値はほぼ同程度で、その反面、「数と式」、「データの活用」の相対値が低い傾向にある。「図形」や「関数」等の視覚的に捉えやすい分野については取り組むことができているが、数字や文字だけの計算になると苦手な傾向にある。

＜質問調査の結果にみられる特徴と現状分析＞

学校質問調査の結果にみられる特徴と現状	生徒質問調査の結果にみられる特徴と現状
・全体的に教科の指導方法のスコアが高い傾向にある。しかし、授業改善とＩＣＴを活用した学習状況のスコアが低いため、既存の学習スタイルを例年通り行っている可能性が高い。ＩＣＴを活用した授業改善により、時短、記録、共有の効果を狙っていく必要性がある。 ・「生徒指導」、「学校運営」、「教職員の資質能力」のスコアが高い。例年に比べ、落ち着いて学習に取り組むことができるようになってきている。これは教職員が生徒保護者のために最善を尽くしていることが要因の一つであることがうかがわれる。 ・「家庭や地域との連携」のスコアが著しく低い。日ごろから保護者との関係を密にし、学校が家庭、地域と連携して生徒を育てるという意識が大切である。	・「数学への関心等」が高い反面「国語への関心等」が低い傾向にある。①文字②数字③図形の順番で苦手な傾向にあると考えられる。国語科としてはいかに活字への抵抗感を少なくした授業展開ができるかが今後の課題となってくると推察する。 ・「規範意識」、「自己有用感」は高く「生活習慣・学習習慣」が低い傾向にある。「規範意識」、「自己有用感」の高さが本校の学習環境の安定につながっているため、次の段階としてはいかに生活習慣・学習習慣を高めて、学力向上に向かっていくかが課題である。

＜改善策・検証方法＞

改善目標	改善方策（どのような取組を いつ・どの程度 行うか）	検証方法（いつ・どのように検証・評価するか）
【教科に関する調査】 ①基礎学力の定着・向上を図る。 ②記述力の向上を図る。 【学校質問調査】 ①生徒の学力向上のために、教職員がＩＣＴを効果的に使うなど、授業の時間短縮、写真等の記録、情報の共有を図るような授業改善を行っていく。 ②「国語への関心等」のスコアの向上と国語、数学ともに記述力を上げる。 ③生徒に家庭でも学校でも自学自習させ、基礎学力を定着させる。 ④「家庭や地域との連携」の向上を図る。	【教科に関する調査】 ①導入の工夫を図り、生徒が取り組みたくなるような教材の研究を行う。 ②授業の中で自分の意見を書く時間を設け、書くことを習慣づける。 【学校質問調査】 ①教職員向け（１０年目以下等）のＩＣＴ研修を増やしていく。特にロイロノートに関する内容を学ぶ。 ②③今年度より取り組んでいるルーブリック評価により生徒の自己調整力を高め、自らの行動の振り返りをさせ、行動変容を促す。特に家庭学習においての課題が大きいため、家庭における行動変容につながるような取り組みをしていく。 （例１） テスト期間中にルーブリックを使用し、自分の行動を評価させ、自らの学習がより質の高いものになることを目指させる。 （例２） 長期休暇中にルーブリックを使用し、学習習慣と規律のある長期休暇を過ごすことを目指す。 ④小中一貫教育と密な家庭連絡を行う。特に体育祭や合唱お披露目会に小学生を招き交流を図る。	【教科に関する調査】 ①②教科部会、授業研究をとおして、情報の共有を図る。振り返りシートを活用し、生徒の苦手部分や困り感を理解し、解決を図る。 【学校質問調査】 ①来年度の「ＩＣＴを活用した学習状況」の変化を見る。 ②③前期末、年度末に生徒アンケートをとり、実際に行動変容があるかどうかを調査する。３か年の復習テストの結果から経年変化を見る。 ④小学校教諭と連携を密にして、効果等を共有する。

改善方策の実施結果・評価（改善方策を実施後、検証してどうだったか）